

令和 6 年度
高齢者支援総合センター機能強化担当
事業計画・報告書

資料 5-9

<後方支援>

1 総合相談支援

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者支援総合センターにおける利用者の支援に関する相談又はその他の相談（利用者の直接支援以外の相談）があった場合には、コンサルテーション等、必要な支援を行うとともに、高齢者支援総合センターが構築する利用者の継続支援に向けた体制整備の取り組みについて、後方支援を行う。 ○ 高齢者支援総合センターが包括支援体制整備事業を活用するにあたり、支援会議等への出席や、関係機関との連絡・調整を通じ、センターの後方支援を行う。 																												
結果	<p>事例の調整等 6 6 件(前年度 2 5 件)</p> <p>利用者の直接支援以外の相談 1 6 件(前年度 2 1 件)</p> <p>高齢者支援総合センターからの相談依頼に基づき、助言等を通じた後方支援を行った。センターが個別の利用者対応を行う上で、対応の困難性等、課題がある事例については個別対応を行うとともに、センター職員と異なる視点による助言及び支援方法の提案等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例調整【困難事例、個別相談に関する相談】 ・利用者の直接支援以外の相談【個別事例によらない、その他の相談支援】 ・介護事業所からの相談 <p>【相談内容別内訳】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>関連事業</th><th>主たる内容</th><th>件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合相談業務に関する相談</td><td>困難事例、長期的伴走支援が必要な事例</td><td>11 件</td></tr> <tr> <td>包括的・継続的ケアマネジメント支援業務に関する相談</td><td>ケアマネジャー支援に関する相談・ケースカンファレンスへの出席など</td><td>36 件</td></tr> <tr> <td>権利擁護関連業務に関する相談</td><td>虐待対応の法解釈等に関する事など</td><td>14 件</td></tr> <tr> <td>指定介護予防支援業務に関する相談</td><td>介護保険算定解釈等について</td><td>3 件</td></tr> <tr> <td>スーパービジョン支援に関する相談</td><td>トレーナー等配置基準について</td><td>2 件</td></tr> <tr> <td>認知症総合支援業務に関する相談</td><td>認知症初期集中支援チーム事例の対応について</td><td>3 件</td></tr> <tr> <td>介護予防・日常生活支援総合事業業務に関する相談</td><td>介護予防ケアマネジメント支援過程について</td><td>2 件</td></tr> <tr> <td>その他の相談</td><td>みまもり相談室人員配置について</td><td>11 件</td></tr> </tbody> </table>	関連事業	主たる内容	件数	総合相談業務に関する相談	困難事例、長期的伴走支援が必要な事例	11 件	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務に関する相談	ケアマネジャー支援に関する相談・ケースカンファレンスへの出席など	36 件	権利擁護関連業務に関する相談	虐待対応の法解釈等に関する事など	14 件	指定介護予防支援業務に関する相談	介護保険算定解釈等について	3 件	スーパービジョン支援に関する相談	トレーナー等配置基準について	2 件	認知症総合支援業務に関する相談	認知症初期集中支援チーム事例の対応について	3 件	介護予防・日常生活支援総合事業業務に関する相談	介護予防ケアマネジメント支援過程について	2 件	その他の相談	みまもり相談室人員配置について	11 件	
関連事業	主たる内容	件数																											
総合相談業務に関する相談	困難事例、長期的伴走支援が必要な事例	11 件																											
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務に関する相談	ケアマネジャー支援に関する相談・ケースカンファレンスへの出席など	36 件																											
権利擁護関連業務に関する相談	虐待対応の法解釈等に関する事など	14 件																											
指定介護予防支援業務に関する相談	介護保険算定解釈等について	3 件																											
スーパービジョン支援に関する相談	トレーナー等配置基準について	2 件																											
認知症総合支援業務に関する相談	認知症初期集中支援チーム事例の対応について	3 件																											
介護予防・日常生活支援総合事業業務に関する相談	介護予防ケアマネジメント支援過程について	2 件																											
その他の相談	みまもり相談室人員配置について	11 件																											

2 権利擁護

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 権利擁護事例検討会の企画・運営に協力するとともに、検討会に出席し専門性を活かした助言及び意見を行う。 ○ 権利擁護ワーキングの企画及び運営を行う。 ○ 男性介護者ワーキングの企画及び運営を行う。 ○ 墨田区男性介護者教室の開催を支援する。 ○ 高齢者支援総合センターにおいて解決が難しい高齢者虐待等、権利擁護事例の支援及び権利擁護業務に係る相談又は支援要請があった場合は助言、カンファレンスの出席を行う。 	
結果	<p>権利擁護ワーキング 1 2 回(前年度 1 2 回)</p> <p>男性介護者ワーキング 1 2 回(前年度 1 2 回)</p> <p>権利擁護事例検討会 1 3 回(助言者：弁護士 9 回 助言者なし 3 回 臨時事例検討会 1 回)</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 虐待対応の手順の統一化を図るために、「墨田区高齢者虐待対応マニュアル」の相談受理から終結までの、業務の流れの見直しや「墨田区版養護者による高齢者虐待対応の手順（虐待対応フローチャート）」に基づく流れを再確認し、合意形成をしながら作成に取り組んだ。 墨田区版「高齢者の虐待対応における分離保護に係るガイドライン」を作成した。 ワーキングの企画・運営において、高齢者福祉課相談係権利擁護担当職員と共に議題の整理を行い、必要に応じて資料を作成した。 分離保護が必要な場合の支援者の重要確認事項の意見交換を行い取りまとめ資料を作成した。 男性介護者教室のブラッシュアップのために、アンケートを作成し内容を吟味した。
--	---

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネ支援ワーキングの企画及び運営を行う。 介護支援専門員の研修及び企画を行う。 	
結果	ケアマネ支援ワーキング 1 2 回(前年度 1 2 回)	ケアマネジャー向け研修 1 回(前年度 1 回)
	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネ支援事例検討 3 回(ワーキング時間内で実施) <ol style="list-style-type: none"> 「介護保険外の支援を頻回に要求する利用者にいかに介護保険のサービスについて理解してもらうためには」 「難解なケースだが、包括との連携をとろうとしていないケアマネジャー」 「ケアマネジャーが働きやすい環境について」 ワーキングの企画・運営において、高齢者福祉課、ケアマネ支援ワーキング担当者と共に議題の整理を行い、必要に応じて資料を作成した。 墨田区介護支援専門員・高齢者支援総合センター合同研修にて「キーパーソンが不在の独居高齢者の支援について」の企画、運営を行った。 合同研修にて行ったグループディスカッションより上がった課題の整理に取り組んだ。 <p>○ 墨田区介護支援専門員向け研修 ※詳細報告は別紙参照 「キーパーソンが不在の独居高齢者の支援について ～よりよい生活支援に向けて～」 ※墨田区居宅介護支援事業所及び高齢者支援総合センター合同研修会として実施 講師：グループディスカッションによるワークショップ方式のため、講師は設定せず 開催日：令和 6 年 10 月 30 日 受講者数：居宅介護支援事業所・34 事業所/介護支援専門員 7 1 名(主任介護支援専門員含む)/高齢者支援総合センター 20 名・高齢者みまもり相談室 6 名</p>	

4 介護予防

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防ワーキングの企画及び運営を行う。 高齢者支援総合センター（介護予防支援事業所）が実施する介護予防ケアマネジメント(介護予防ケアプラン)の自立支援・重度化防止に向けた効果及び妥当性について、専門的立場から検証、助言を行う。 通所型サービスC事業(短気集中予防サービス)におけるサービス担当者会議(事前・事後打合せ)に参加し専門的助言を行う。 墨田区地域リハビリテーション活動支援事業連絡会の企画及び運営を行う。
結果	介護予防ワーキング 6 回(前年度 6 回)

- ・ ワーキングの企画・運営において、高齢者福祉課介護予防担当と共に議題の整理を行い、必要に応じて資料を作成した。
- ・ 『ケアマネジメントの質の向上に向けたケアプラン点検』では、「ICFに基づく生活機能分類表」を活用し、自立支援・重度化防止の観点に基づいた、「介護予防サービス・支援計画表（ケアプラン表）」のケアプラン点検会議を実施した。効果検証のためにケアプラン点検実施後に担当者へ実施したアンケートの集計結果では、高齢者支援総合センターの点検をうけた 9 割を超える担当者から実施した内容確認がその後の業務に役立つとの回答が得られた。
- ・ 日常生活支援総合事業通所型サービスCの「事前打ち合わせ（書面開催含む）」及び事後打合せに出席し、介護予防・重度化防止の視点から参加者、サービス提供事業者、ケアプラン作成者に対し助言するとともに、特に参加高齢者に対してはセルフマネジメントの向上に重点を置いたアドバイスを行った。
- ・ 令和 6 年度墨田区地域リハビリテーション活動支援事業連絡会の企画・運営を行った。開催にあたっては、当該事業に関わるリハビリテーション専門職及び各高齢者支援総合センターが連携して実施した取組について共有した。

「墨田区地域リハビリテーション活動支援事業連絡会」の企画・開催・運営

開催日：令和 7 年 3 月 19 日

参加者：理学療法士 12 名/作業療法士 10 名/言語聴覚士 1 名/センター職員 12 名/他 7 名

各圏域取り組みタイトル

- ① 「介護予防自主グループ支援 みどりニュース」（みどり圏域）
- ② 「イケメン戦隊ハケンジャーサロンに参上の巻」（同愛圏域）
- ③ 「出張体力測定会」「自主グループに対する専門知識普及」「フレイル予防講話」「夏休み体操リーフレット配布」（なりひら圏域）
- ④ 「こうめ自主グループ交流会」（こうめ圏域）
- ⑤ 「やりたいこと応援プロジェクト」（むこうじま圏域）
- ⑥ 「ぶらり史跡めぐり～ウォーキング～」(うめわか圏域)
- ⑦ 「2024 早足プロジェクト」（ぶんか圏域）
- ⑧ 「ボッチャを通した高齢者と児童の世代間交流」（八広はなみずき圏域）

なお、地域リハビリテーション活動支援事業連絡会参加者から寄せられた意見は下記のとおり。

- ・ 毎年 1 回集まり、事業に係る皆さんのチーム感、それぞれの地域特性にあわせた工夫などを知れ参考になる。（理学療法士）
- ・ 自分たちの圏域にどう活用できそうか、感想を共有、話し合いができる時間が 15 分くらいあるとよい。（作業療法士）
- ・ 年に 1 回の報告会は、センターの介護予防の取組を知る機会になり、とても勉強になるので絶対に必要である。（センター職員）
- ・ 他の圏域の取組を聞くことができ、今後の事業展開に大変参考になった。（センター職員）
- ・ 対面のみではなくオンライン参加も可能なハイブリット形式の方が参加しやすいのではないかと感じた（理学療法士）

5 認知症支援

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症地域支援推進員会議の運営(事前準備・課題の整理と選定・会議の出席等)を補助する。 ○ 認知症初期集中支援チーム員会議の実施状況を把握し、運営改善等に向け、区や委託事業所への助言を行う。
結果	<p>認知症地域支援推進員会議(臨時会含む) 13回(前年度 12回)</p> <p>認知症初期集中支援チーム員会議 12回(前年度 12回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症初期集中支援推進事業の効果的・効率的な運営を目的に、認知症地域支援推進員や事業受託者およびサポート医と意見交換を行いつつ、「墨田区認知症初期集中支援推進事業マニュアル」の改訂を行った。 ・ 認知症地域支援推進員が行った事例検討会から上がった課題に対して、解決に向けた提案を行った。 ・ 認知症地域支援推進員会議に出席し必要に応じて意見を述べるとともに、「墨田区認知症施策進行シート」に基づく事業の企画、取組について適宜助言を行った。

6 地域ケア会議

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各高齢者支援総合センターが開催する地域ケア会議において、会議の機能及び目的が十分に果たされるよう、関係機関との調整及び事前資料の準備等の運営サポートを行う。 ○ 必要に応じて、高齢者支援総合センターが主催する地域ケア個別会議、地域ケア推進会議へ出席し助言及び意見を述べる。 ○ 区が開催する墨田区地域ケア会議の運営(事前準備・課題の整理と選定・会議の出席等)に協力する。
結果	<p>圏域個別会議 6回(前年度 3回) 圏域推進会議 9回(前年度 14回) 墨田区地域ケア会議 1回(前年度 1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各高齢者支援総合センターが開催した地域ケア個別会議、地域ケア推進会議に延べ 16 回出席し、必要に応じて助言を行った。また、墨田区地域ケア会議の検討課題の選定等、会議の準備、企画に協力するとともに、会議に出席した。

7 その他

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室連絡会の企画及び運営を行う。
結果	<p>センター・相談室連絡会 12回(前年度 12回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センター・相談室が取り組む業務の情報共有を目的とした連絡会について、高齢者福祉課担当者と共に議題を整理し、企画、運営を行い会議における意見の取りまとめ、合意形成を行うなどファシリテーターの役割を果たした。

<ネットワーク構築>

8 生活支援体制整備事業

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援サービスネットワーク連絡会に出席し、墨田区全域または各高齢者支援総合センター圏域の課題整理や地域資源の整備状況、生活支援コーディネーターの取組について協議を行う。 ○ 第 1 層生活支援コーディネーターを担う社会福祉協議会担当者と墨田区担当者を補佐し、生活支援サービスの開発・普及に向けた助言並びに各層協議体に出席するとともに、運営を補助する。
----------	---

結果	生活支援サービスネットワーク連絡会 6 回(前年度 6 回)
	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 層生活支援コーディネーター（社会福祉協議会に設置）に協力し、会議の企画・運営サポートを行うとともに、事業計画及び事業実施方針の策定をサポートした。 生活支援コーディネーターの活動を支援するため、地域課題やニーズの把握のための取組の助言及び提案等を行った。

9 高齢者みまもり相談室との連携及び支援（令和 6 年度新規事業）

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者みまもり相談室と連携し、見守りネットワーク構築及び推進に係る課題等を把握するための取組を支援し、必要に応じて専門的助言を行う。 ○ 高齢者みまもり相談室ワーキング及び高齢者みまもり相談室事例検討会に出席する。 	
結果	みまもり相談室ワーキング 8 回（新規事業）	みまもり相談室事例検討会 5 回（新規事業）
	<ul style="list-style-type: none"> 見守りネットワーク構築及び推進に係る活動を支援するため、ワーキングや事例検討会の企画、運営支援のほか、必要に応じて専門的助言、提案を行った。 事例検討会では検討テーマに即して、事例提出者が事例内容を整理しやすいように資料を作成して、事例検討会の効率的な運営のための支援を行った。 	

<人材育成>

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員の専門職として期待される専門性の向上を目的とした研修等、人材育成支援を行う。 ○ 各高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室が組織内で行うスーパービジョン等の人材育成並びに業務管理について後方支援するとともに、墨田区スーパービジョンシステムの推進に向けた取り組みを行う。
結果	<p>【高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員専門研修】 ※詳細報告は別紙参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第 1 回研修 「墨田区高齢者福祉総合計画・第 9 期介護保険事業計画について～データに見る墨田区の現状と課題～」 開催日：第 1 回令和 6 年 6 月 2 7 日 ・ 第 2 回 7 月 1 9 日 ・ 第 3 回 7 月 2 4 日 受講者数：第 1 回・ 1 8 名 第 2 回・ 3 7 名 第 3 回・ 2 9 名 総計 8 4 名 ○ 第 2 回研修 「みまもり相談室に求められる専門的技術について考える」（学習会） 開催日：令和 7 年 3 月 6 日 受講者数：相談室職員 1 4 名 センター職員 2 名 その他 1 0 名 総計 2 6 名 なお、本研修より研修の録画動画を墨田区公式 YouTube チャンネルにおいて限定公開することとし、これによって研修に受講できなかった職員や新任職員などが、いつでも視聴学習、復習が行える環境を整えることができた。

<その他>

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 墨田区が実施する実地調査への協力 ・ 高齢者支援総合センター及び高齢者みまもり相談室事業の実施状況の点検及び確認について、専
----------	---

	<p>門職の立場から調査に協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 墨田区地域包括支援センター運営協議会に出席する。 ○ トレーナー・サブトレーナー連絡会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室トレーナー・サブトレーナー連絡会を開催し、高齢者支援総合センターの課題や情報共有、各高齢者支援総合センター間の連携促進、事業の取組等の共有や、事業の標準化を図る。 ○ その他、高齢者支援総合センターを代表する各種関連会議、協議会、連絡会等への出席要請があった場合には、必要に応じて出席する。 	
結果	<p>実地調査同行 8 件(前年度 8 件)</p>	<p>トレーナー・サブトレーナー連絡会 1 回(前年度 1 回)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 墨田区が実施する実地調査（令和 6 年 1 2 月 2 日～2 0 日実施）の協力においては、事前にセンターが取り組む事業の実施状況等について、高齢者福祉課と打合せを行い、実地調査同行後は、圏域ごとに機能強化担当「総評」を示した。 ・ トレーナー・サブトレーナー連絡会では、「関係機関等から、利用者対応依頼または利用者紹介があった場合の対応について(事例検証)」について、ソーシャルワーク実践をしていく立場で、どのような支援の展開が考えられるか、今後も起こりうる可能性も考えられ、ソーシャルワークの視点、支援の展開過程において、どのようなアプローチが必要か、について、意見交換を行った。 ・ 週 1 回定期開催される「高齢者福祉課・機能強化担当定期連絡会」で各事業別ワーキング、センター・相談室連絡会の議案検討及び運営について確認するとともに、高齢者支援総合センターが実施する各事業の課題等の検討を行った。 ・ 令和 6 年度「墨田区保健事業等地域連携検討会」に高齢者支援総合センターを代表して出席した。 	

令和6年度 高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員専門研修及び介護支援専門員向け研修（包括的・継続的ケアマネジメント支援事業）の 実施評価について

◆高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室職員専門研修

○ 第1回研修

「墨田区高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画について」～データに見る墨田区の現状と課題～

講師：墨田区福祉保健部高齢者福祉課支援係 中島 応治 係長

開催日：第1日：令和6年6月27日 第2日：7月19日 第3日：7月24日（3回同内容）

目的：墨田区高齢者福祉総合計画、第9期介護保険事業計画～本体計画のポイント、本体計画と圏域別計画とのつながりについて～は、日常生活圏域ニーズ調査結果、墨田区の将来人口構造等の諸データから、墨田区の高齢者を取り巻く現状と中長期的課題を理解することにより、効果的に事業を展開して行くことができるようにすることを目的として行った。

- 内容：① 第9期計画の考え方・施策の方向性を理解する。
 ② 墨田区の高齢者を取り巻く現状と中長期的課題を理解する。
 ③ 第9期計画(本体計画)と、圏域別地域包括ケア計画の関連について再確認する。
 ④ 第9期計画及び圏域地域包括ケア計画を最大限活用し、事業の推進、評価につなげることが出来る。

受講者数：1日目：15名 2日目：29名 3日目：23名 計67名

[研修評価法による効果測定]（3回合計）

第1レベル評価（満足度及び研修に対する反応：Reaction）N=67 n=61

研修の事前準備：研修目的の理解や期待	当てはまる/やや当てはまる	69% (X̄)
学習内容：学習量、難易度の適切性等	当てはまる/やや当てはまる	84% (X̄)
講師のインストラクション：講師の評価	当てはまる/やや当てはまる	93% (X̄)
研修教材（資料）	当てはまる/やや当てはまる	95% (X̄)
研修時間及び時間帯、開催方法	当てはまる/やや当てはまる	82% (X̄)

※N=標本母数 n=標本数 X̄=標本平均

第2レベル評価（学習効果：Learning）N=67 n=61

研修全般の理解度	80～100%	24名
	60～80%	29名
	40～60%	8名
	20～40%	0
	0～20%	0
「高齢者を取り巻く状況」に関する理解度	80～100%	32名
	60～80%	25名
	40～60%	4名
	20～40%	0
	0～20%	0
「第8期課題や国の基本方針を踏まえた第9期の方向性」に関する理解度	実務で実行でき、指導、助言も可能	26名
	実務で実行できる	28名

	実行可能レベルも、更なる修練が必要	3名
	理論の理解はできたが自信がない	1名
	技術習得できず、実行できない	0
「第9期計画の基本的な考え方」に関する理解度	80～100%	26名
	60～80%	28名
	40～60%	6名
	20～40%	1名
	0～20%	0
「介護保険事業の推進」に関する理解度	80～100%	15名
	60～80%	38名
	40～60%	7名
	20～40%	2名
	0～20%	0

第3レベル（行動・意識変化：Behavior）・第4レベル（目標達成：Result）N=67 n=29

研修受講後の業務の取り組み姿勢、意識変容	あった	10名
	ややあった	9名
	なかった	2名
	もともと意識があったので変化はなかった	8名
研修受講後の組織の取り組みや、目標への影響	あった	10名
	ややあった	14名
	なかった	5名
研修受講による、令和7年度事業計画策定への影響	あった	13名
	ややあった	12名
	なかった	4名

※第3レベル評価アンケートの実施は、研修後7か月間のインターバルの後、令和7年3月に実施

考察（研修目標に対する成果と課題）

設問12の記述回答では、「現状と今後の予測を踏まえ、計画の遂行をすることが制度の高い実践につながるのだと思うので、今回の内容を参考に計画の実行をしていきたい。区とセンターがこのような情報の共有をすることはとても大事なことだと思った。」「一人暮らし高齢者の増加、高齢化等がすすんでいることが再確認できたので、アウトリーチでの早期発見や通いの場へつなげるようにしていきたい。」「（圏域で）行っている事業が、区の計画につながっている事を意識して取り組んでいきたい。」「今回の研修では、それらに取り組む必要性や具体的な根拠が示されたように思う。特に、今年度は孤食の解消を目指した栄養改善プログラムも計画しているため、とても役立った。」「9期計画と地域包括ケア計画、重点的な取り組みのお話はとても興味深く、相手を意識して業務に取り組んでいきたい。」「区の方針をふまえて、圏域の事業に取り組むことができるようになると思う。」「今までの他の圏域の9期計画をしっかりと読んだことがなかったので、この機会に読み、圏域を超えて一緒に9期計画を行うことも今後大切になるのではと思った。」（以上、一部抜粋）等といった、区の本体計画と圏域別地域包括ケア計画を関連付けて捉える回答が見受けられ、相互の関係性や連動性についての再確認はその記述から一定の効果があったと推察できる、

一方で、本体計画と圏域別地域包括ケア計画の関係の重要性から、地域包括ケア計画策定作業に着手する段階で、早期に今回のような説明、あるいは本体計画の解説を聞いたかったとの意見が散見された。こうした意見は両計画の関係を、一体的あるいは相互補完的なイメージで捉えていることの証左ではないかと考えられる。

本研修における最大の目標は、「研修のねらい④」に示したとおり、「第9期計画及び圏域地域包括ケア計画を最大限活用し、事業の推進、評価につなげること」であり、各センター・相談室が事業計画で表したロジックモデルのアウトカムを適切に得ることである。その動機付けの意味もあり、中島支援係長を講師に高齢人口と社会背景をもとに客観的データに基づく墨田区の実態と将来予測、第9期計画による区の取り組みの方向性について講義いただいた。

[課題]

本研修会を通じて、センター・相談室事業における今後の課題については、

- ① 将来推計データから読み取れる地域課題に対し、センター・相談室（社会福祉協議会及びシルバー人材センター含む）が、単年度計画において実効性がある取り組みを行うことができるか。
- ② ロジックモデルで表した諸事業について、PDCAによる業務展開により、確実に成果を得ることができるか。
- ③ 策定された業務を実施する上で、専門性（知識・技術・価値）を発揮して、専門職ならではの業務展開を行っていくことができるか。

以上のような課題が挙げられよう。

各圏域（地域）の実情を反映しつつ、エビデンスに基づく業務展開を行う前提として、適切に地域課題を抽出する地域ケア会議の運営、データ分析力の習熟なども今後さらに要求される。

○ 第2回研修

「みまもり相談室に求められる専門的技術について考える」（学習会）

講師：シルバープラザ梅若館長 高村 弘晃

墨田区高齢者支援総合センター機能強化担当 木村 靖

開催日：令和7年3月6日（木）午後3時15分から午後4時25分まで

場所：墨田区庁舎121会議室

目的：墨田区高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画に示されている将来人口推計によれば、今後、後期高齢者、単身高齢者及び認知症高齢者の増加が予測されているが、こうした高齢者層において、今般、特に単身高齢者の支援について焦点化し、現状の支援における諸課題及び、今後新たに発生することが懸念される課題等について、介護支援専門員及び高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室が、それぞれの視点、役割において明確化するとともに、課題解決に向けて必要な事項を共有、気づきを得ることによって、もって介護支援専門員が行うケアマネジメント支援の質的向上と業務の適正化、高齢者支援総合センター並びに高齢者みまもり相談室との連携の促進を図ることを目的とする。

研修目標：①墨田区高齢者みまもり相談室事業の創設背景から、みまもり相談室に求められる役割、機能（地域の孤立高齢者を見える化すること）を再確認する。

②高齢者みまもり相談室職員が日常的に取り組んでいるアウトリーチとネットワーキングについて、専門性の視点から考察し、改めてみまもり相談室の専門性について理解する。

受講者数：16名（相談室職員14名・センター職員2名）

学習効果アンケート：N=16 n=14

「みまもり相談室創設の背景」を知ること、みまもり相談室の役割、機能の再確認ができたか	できた	13名
	ややできた	1名
	できなかった	0名
	どちらともいえない	0名
アウトリーチとネットワーキングについて、専門性の視点から考察し、みまもり相談室の専門性が再理解できたか	参考になる気づきがあった	11名
	なかった	3名
	反映した	0名
	反映に向けて検討中反映の予定なし	0名
研修受講によって、業務に取り組む姿勢や意識の変化はあったか (※1名複数回答選択)	あった	6名
	ややあった	6名
	なかった	0名
	もともと意識があったので変化はなかった	3名

考察（研修目標に対する成果と課題）

[研修目標①]

墨田区高齢者みまもり相談室事業の創設背景から、みまもり相談室に求められる役割、機能（地域の孤立高齢者を見える化すること）を再確認する。

[成果]

アンケートの設問1「墨田区高齢者みまもり相談室事業創設の背景」を知ることによって、みまもり相談室に求められる役割、機能（地域の孤立高齢者を見える化すること）の再確認ができたか。」の回答から、13名(n=14)が「再確認ができた」と回答している。その理由として、「相談室の創設の経緯を知ること、求められていること（役割・機能）がよく分かった。」「創立に至った背景から、相談室に求められること、役割を果たしていく重要性を改めて知った」などと言った記述があった。さらに「墨田区のみまもり相談室の約15年の取り組みや展開、現在の課題について機会があれば学びたい」といった、みまもり相談室の現況や課題を把握する方法として、これまでの取り組みや業務展開を回顧する意義について言及する意見もあった。

高齢者みまもり相談室が取り組む、見守りネットワーク構築や高齢者の孤立防止などの業務は、『墨田区版みまもり相談室マニュアル（※第6章「スーパービジョンシステム」）』にも記述があるように、その性質上、「見守り行為を媒体とした地域づくりであり、成果が見えにくい」「フィールドは生活圏域であることから、業務の範囲が定めにくい」といった取り組みの難しさがあり、経年的な業務過程において、目的や方向性が不明瞭になる可能性もあることから、今般、みまもり相談室事業を歴史的に遡及し、事業開始当初の目的と趣旨を再確認する学習会を開催したが、前述のとおり、ほぼ「再確認ができた」との回答を得ることができた。

[研修目標②]

高齢者みまもり相談室職員が日常的に取り組んでいるアウトリーチとネットワーキングについて、専門性の視点から考察し、改めてみまもり相談室の専門性について理解する。

[成果]

アンケートの設問2「日常的に取り組んでいるアウトリーチとネットワーキングについて、専門性の視点から考察し、改めてみまもり相談室の専門性について理解できたか」の回答(n=14)から、11名が「できた」、3名が「ややできた」と回答した。

選択理由によると、「アウトリーチを続けていくことで、その訪問時で確認される『気づきのポイント』や情報が今後の支援への助力につながる」「アウトリーチではみまもり相談室がその人の支援の入り口を担っていること、

ネットワーキングでは複数の援助者と共有された目標を達成するために活動を展開していくプロセスだということが理解することができた」など、アウトリーチやネットワーキングといった技術的アプローチが生み出す具体的な効果などに言及する記述も見受けられた。また、これまでの地域分析のアプローチを再検証する試みとして、過去の事例検討会で取り扱った事例にあたるなどの具体策を示す意見もあった。

本学習会は、みまもり相談室職員の専門性の再確認とともに、自覚的なスキルアップを促すことも副次的な効果として期待される企画であったが、設問3の記述にもみられるとおり、業務に携わる上でのモチベーションの維持や、あるいは「使命感」という表現を用いて所感を述べる記述もあった。

設定時間の短い学習会であったが、一定の効果が得られた、充実した学習会を行うことができたと総括したい。

[課題]

前項「目標に対する成果」において述べたことであるが、高齢者みまもり相談室業務の性質として、「見守り行為を媒体とした地域づくりであり、成果が見えにくい」「フィールドは生活圏域であることから、業務の範囲が定めにくい」といった対応の難しさが指摘されているが、このことは、換言すれば「難しい対応が求められる業務ゆえに、専門職として立ち返るべきは専門的技術の向上」であり、業務における日頃の経験に加え、さらに専門的なアプローチ理論の習得、いっそうの自己研鑽が要求されるのだと思われる。

みまもり相談室職員の人材育成の視点から、今後の課題と対策の一案として、

- ① みまもり相談室事例検討会における、技術的専門性の探求
- ② みまもり相談室業務（事業）の実情に即した、定期的な研修、学習会の開催
- ③ データ分析から明らかになった課題へのソーシャルワーク理論に基づく対応の研究
- ④ 業務へのモチベーション維持のための定期的なフォローアップ企画の立案

などが考えられるのではないだろうか。

◆介護支援専門員向け研修（墨田区居宅介護支援事業所及び高齢者支援総合センター合同研修会）

「キーパーソンがいない独居高齢者の支援について ～よりよい生活支援に向けて～」

開催日：令和6年10月30日（水）午前9時30分から午前11時30分まで

場所：墨田区庁舎131会議室

目的：墨田区高齢者みまもり相談室事業が始まって16年が経過した。本年は、いわゆる「2025年問題」の年であり、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になり、総人口の4分の1が後期高齢者になると言われている。2025年問題の年を迎え、あらためて高齢者みまもり相談室事業が始まった16年前の当初の目的を振り返りつつ、令和7年（2025年）以降、地域の高齢者人口動態の変化によってもたらされる、地域社会の諸課題に対し、高齢者みまもり相談室の取り組み内容を専門技術面から再確認し、もって適切な高齢者みまもり相談室事業の運営及び課題解決に資することを目的とする。

研修目標：①「キーパーソンが不在の独居高齢者」支援の課題が明らかになり、課題に対する必要な取り組みを確認（または提案）、共有する。

②ケアマネジャーが行うケアマネジメントを補完する社会資源や制度を理解する。

③高齢者支援総合センターが実施する包括的・継続的ケアマネジメント支援事業及び生活支援体制整備事業等の課題が明らかになり、課題解決に向けた具体的な取り組みの視点を持つことができる。

受講者数：居宅介護支援事業所34事業所/介護支援専門員71名

高齢者支援総合センター職員20名/高齢者みまもり相談室職員6名

【センター・相談室職員】

研修満足度 N=26 n=17

研修内容全般	とてもよかった	11名
	よかった	6名
	どちらともいえない	0名
	あまりよくなかった	0名
	よくなかった	0名
グループディスカッション	とてもよかった	11名
	よかった	6名
	どちらともいえない	0名
	あまりよくなかった	0名
	よくなかった	0名

研修理解度 N=26 n=17

キーパーソン不在の独居高齢者支援課題について共有できたか	十分できた	3名
	できた	14名
	どちらともいえない	0名
	あまりできなかった	0名
	できなかった	0名
研修を通じ、センター・相談室として取り組むべき課題は把握できたか	よくできた	1名
	できた	16名
	どちらともいえない	0名
	あまりできなかった	0名
	できなかった	0名
研修会を通じて得られた事柄や気づきを今後のセンター・相談室業務に反映できるか	十分できる	4名
	できる	12名
	どちらともいえない	1名
	あまりできない	0名
	まったくできない	0名

【介護支援専門員】

研修満足度 N=71 n=62

研修内容全般	とてもよかった	46名
	よかった	16名
	どちらともいえない	0名
	あまりよくなかった	0名
	よくなかった	0名
グループディスカッション	とてもよかった	49名
	よかった	13名
	どちらともいえない	0名

	あまりよくなかった	0名
	よくなかった	0名

研修理解度 N=71 n=64

キーパーソン不在の独居高齢者支援課題について共有できたか	十分できた	38名
	できた	26名
	どちらともいえない	0名
	あまりできなかった	0名
	できなかった	0名
課題に対する必要な取り組みについて理解できたか	よくできた	31名
	できた	31名
	どちらともいえない	2名
	あまりできなかった	0名
	できなかった	0名
ケアマネジメントを補完する社会資源や制度を理解することができたか	よくできた	18名
	できた	38名
	どちらともいえない	8名
	あまりできなかった	0名
	まったくできなかった	0名
研修は今後の業務に役立つか	十分役立つ	28名
	役立つ	34名
	どちらともいえない	2名
	あまり役立たない	0名
	役立たない	0名

考察（研修目標に対する成果と課題）

「キーパーソンがいない独居高齢者の支援」をテーマに、グループディスカッションを実施。各グループ別に①日常生活援助・②入退所/入退院・③金銭管理等の日常的な援助場面の検討項目を設定し、「キーパーソンが不在の独居高齢者支援」において、困難に感じていること（課題等）や、課題に対する対応状況、解決策について意見交換、検討を行った。

当初目標に対する研修成果として、

- ① ケアマネジャーによるキーパーソンが不在の独居高齢者支援について、利用者の要求に応えざるを得ない状況下での法定外業務（いわゆるシャドーワーク）が実態として明らかになった。
- ② ケアマネジャーが実施するケアマネジメント支援を補完する制度、資源（地域ケア会議、生活支援体制整備事業、包括的支援体制整備事業等）を紹介し、特に「墨田区地域ケア会議地域課題抽出グランドデザイン」を示すことにより、地域ケア会議への理解が深まったとの成果が得られた。
- ③ ケアマネジャーの実践課題などが検討を通じて明らかになり、高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室が実施する生活支援体制整備課題、ケアマネジャーに対する包括的・継続的ケアマネジメント支援課題、単身高齢者に対する生活課題等について、改めてセンター・相談室として課題認識を持つことができ、今後の取り組みへの示唆が得られた。

研修当初のアンケート及びケアマネ支援ワーキング等による振り返り、感想から以上、総括する。

[課題]

ケアマネジャーによる法定業務以外の業務によって利用者の日常生活支援が支えられている現状は、一方でその業務を補完する社会資源の不足を意味するものとも捉えられ、当該課題は墨田区における地域包括ケアシステムの課題でもある。

『墨田区高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画』においても示されているとおり、今後は一層後期高齢者及び高齢世帯、単身高齢世帯が増加することが確実であり、本研修において論じられた「キーパーソンがいない独居高齢者支援」が重点課題として
焦点化することが予測できる。

こうした地域ニーズに応えるために、これまで指摘されてきたとおり、公的な支援以外にも地域住民の互助と参加、地域団体や企業等、多様な担い手による社会参加や支え合いを早急に創出していかなければならない。

高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室としても、引き続き地域ケア会議の実施、生活支援体制整備事業や介護予防事業、地域の見守りネットワークの機能強化等を通じて実効性のある取り組みをしていかなければならないだろう。

[研修を通じた今後の取り組みの方向性]

研修会では、「日常生活援助」「入退所/入退院」「金銭管理等」の検討事項を設定し、現状と課題、対策について分類作業を行ったが、今後の取り組みの方向性としては、令和6年12月12日に厚生労働省より発表された『ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会（中間整理）』において示された『居宅介護支援事業所におけるケアマネジャーの業務について』の課題整理に準拠し、「法定業務」「保険外として対応しうる業務」「他機関につなぐべき業務」「対応困難な業務」にケアマネ支援ワーキングを通じて再整理、再分類を行う。

最終的な整理が整った段階で、整理された業務内容及び課題に応じ、当該事項を所管する庁内各課及び墨田ケアマネジャー連絡会、社会福祉協議会等の関係団体に提示することを予定している。

研修におけるまとめが、第10期介護保険事業計画（高齢者福祉総合計画）策定に向けた参考資料として、活用されることを期待したい。

以上